

## 地域を知り 郷土を愛する子供を育てる 体験活動

府中市立上下南小学校 対象学年（5年）

体験活動の種類 自然 交流

体験活動場所 府中市～福山市,

宿泊場所 四季の里キャンプ場, キャンプ in ふちゅう, 旧矢野保育所

### 【学校紹介】

- 本校は、平成 14 年 4 月に 2 つの小学校（矢野小学校、清岳小学校）を統合してできた 12 年目の学校である。福山市から北に約 50km 入った府中市の北西部にあり、瀬戸内海に流れる芦田川と日本海に流れる江の川の分水嶺となっていて、中山間地に位置している。

小中一貫教育に取り組むことを通して、9年間の義務教育を充実させ、すべての子どもの可能性を最大限に伸ばすという府中市教育委員会の方針のもと、上下南小学校、上下北小学校、上下中学校の3校（上下学園）で連携を図りながら、日々の教育活動に取り組んでいる。

本校の児童は、明るく素直である。しかし、クラス替えがないため、児童の人間関係が固定化してしまい、自分の思いを表現することに課題がみられる児童もいる。



- 校長名：井上 和文
- 児童数（学級数）：67名（7学級 特別支援学級を含む）
- 所在地：府中市上下町矢多田171
- 電話番号：0847-62-3336
- URL：<http://www.edu.city.fuchu.hiroshima.jp/~jouginami-shou/>

### 【体験活動のねらい】

- 自分たちが住んでいる府中市のよさを知り、府中市を誇りに思い、郷土を愛する児童を育てる。
- 日常とは異なる環境での生活を体験し、児童の自立心や主体性などを育てる。
- 体験先の地域住民や学校との交流を通して、コミュニケーション能力など人間関係を形成する力を育てる。
- 安全に気をつけて集団でルールを守り生活しようとする態度を育てる。

### 【指導計画】

| 実施時期 | 活動内容              | 実施時間数 | 教育課程上の位置づけ | 実施場所 | 指導者 |
|------|-------------------|-------|------------|------|-----|
| 7月   | 事前学習<br>○学習テーマの設定 | 4     | 総合的な学習の時間  | 学校   | 担任  |

|       |   |    |           |  |                          |
|-------|---|----|-----------|--|--------------------------|
| 7月    | ○男女の協力<br>「わたしのクラスの夏祭り」<br>2ー(3)  | 1  | 道徳の時間     | 学校   | 担任                       |
| 7月    | 集団宿泊活動(3泊4日)<br>○テント設営<br>○野外炊さん<br>○キャンプファイヤー<br>○岳山登山<br>○ユニカール体験<br>○カヌー体験<br>○藍染め体験<br>○お家の方からの手紙 | 24 | 学校行事      | 四季の里<br>岳山<br>キャンプイン府中<br>B&G海洋センター<br>貝原歴史資料館 | ゲストティーチャー<br>施設職員<br>教職員 |
| 9～11月 | 事後活動<br>○体験活動の振り返り<br>まとめ<br>○体験活動発表会に向けての<br>取組・資料作成   | 4  | 総合的な学習の時間 | 学校   | 担任                       |
| 11月   | 南っ子発表会<br>○「体験活動発表<br>“みんな大好きわが郷土上下”<br>～支えてくれてありがとう～」  | 1  | 学校行事      | 学校   | 担任                       |

### 【体験活動の概要】

#### ○岳山登山

地域の方に案内していただき、府中市で2番目に高い山である岳山に登った。岳山には、大きな岩がたくさんあり、カスミサンショウウオというめずらしい生き物にも触れることができ、生き物や自然を大切にしようとする心を育てることができた。また、斜面が急で、ともしんどかったが、途中であきらめずにがんばることの大切さを学んだ。



#### ○ユニカール体験

講師の方に来ていただき、体育館で、4つのグループに別れて、ユニカールの試合を行った。グループごとに作戦を立てたり、お互いに励ましあったりすることで、協力することの大切さを実感することができた。



### ○カヌー体験

府中市B & G海洋センターの方を講師に招き、カヌー体験を行った。初めての児童がたくさんいたので、「協力」「挑戦」をキーワードにして、全員が活動に取り組むことができるようにした。



### ○藍染め体験

貝原歴史資料館では、藍染め体験を行った。白いハンカチを自分の好きな模様へと変身させることができた。また、工場の見学を通して、デニムが製作される工程を知り、地域の産業を学習することができた。



### ○清掃活動

3日目は、学校（隣接の旧矢野保育所）で宿泊した。そして、感謝の気持ちをこめて学校内の施設を清掃した。

指導にあたっては、役割分担を明確にして、自分の担当の場所を時間いっぱいやり切らせるようにした。



### 【体験活動の効果を高める事後学習】

#### ○総合的な学習の時間での取組

9月上旬に、宿泊体験活動で学んだことをどのようにまとめていくかという事後学習を実施した。

導入場面では、体験活動で児童が「挑戦」や「協力」している場面を集めたDVDを見ることにより、体験活動の内容をふり返らせることができ、学習したことをまとめていく際の意欲づけを行うことができた。実際にまとめていく活動では、自分たちが学んだことを4年生に伝えようと意欲的に取り組んだ。

#### ○学習発表会での取り組み

宿泊体験活動での学びの成果を保護者や地域、他学年児童に伝えていくために、学習発表会で「15人の挑戦と協力物語」という創作劇を披露した。お世話になった方々の気持ちになりきって演技をすることによって、体験活動をふり返ることができ、学習したことを発信することができた。

## 【交流先や施設等との連携】

### 事前

- 電話での連絡や現地視察を行い、全体の流れや活動場所の打ち合わせ、確認をした。
- 現地視察では、各施設において危険場所の確認、雨天時の活動場所の確保等を行った。
- キャンプファイヤーのゲストティーチャーと活動の目的、内容などを事前に打ち合わせた。

### 活動中

- 常に児童の体調と安全面に配慮しながら、指導者と連携をとりながら実施した。

### 事後

- 交流箇所全ての施設、ゲストティーチャーにお礼の電話をし、感謝の手紙を送付した。

## 【評価の工夫】

- ふり返りの工夫

体験活動のしおりには、毎日の記録を記入させた。活動直後にしおりへの記入の時間を確保し、ふり返りの視点を明確に示し、自己評価できるようにした。

- ビーイングの活用

その日の終了後、体験活動のテーマである「協力」と「挑戦」についてよかった点と課題についてグループごとに反省を行った。その課題をもとに、次の活動にどのように取り組んでいくのか改善策も考えさせ、常に意識を持って行動させるようにした。



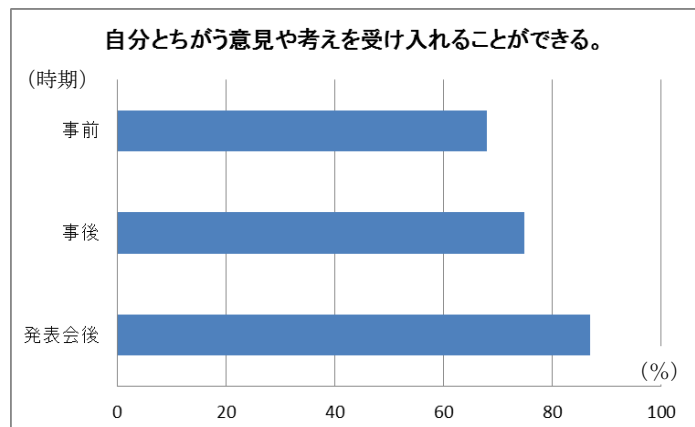
## 【安全面の配慮事項】

- 緊急時の連絡方法や受け入れ医療機関の確認を行った。
- 全教職員が体験活動に関わり、いつでも連絡がとれるようにした。
- 児童の事前健康診断を実施し、食べ物やアレルギー調査、携行薬の確認をした。
- 昨年度の反省と課題を踏まえて、日程にゆとりを持たせることや宿泊場所について検討し、プログラムを組み直した。

## 【体験活動の成果と課題】

<成果>

○児童のアンケート結果より、指標「自分とちがう意見や考えを受け入れることができる」の項目では、事前の68%から発表会後の87%に向上している。これは、岳山登山などの活動で、「もうちょっと、がんばろう。」と励ましの言葉を掛け合う場面が多く、そ



のことによって、最後までやりきることができたからだと考えられる。  
 ○指標「自分にはよいところがあると思う」や「相手の立場になって考えることができる」の項目では、事前より事後の方が数値が向上している。

これは、家族と離れて今まで経験したことがない活動をやりきることができたことが、自信につながったと考える。

また、多くの児童が全員でしなければならないことを優先して行動し、お互いに協力する姿が見られたからと考えられる。

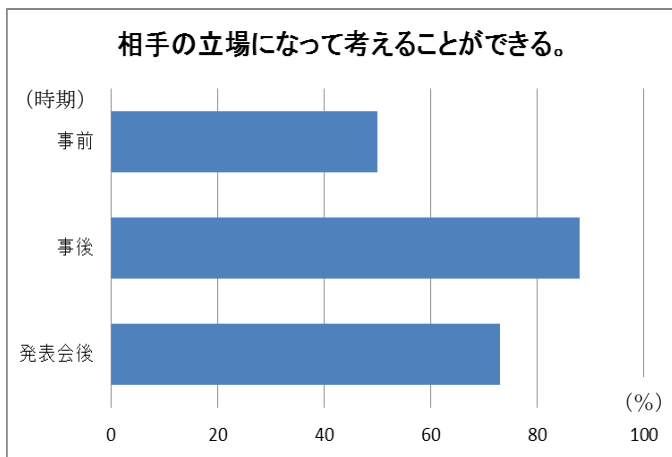
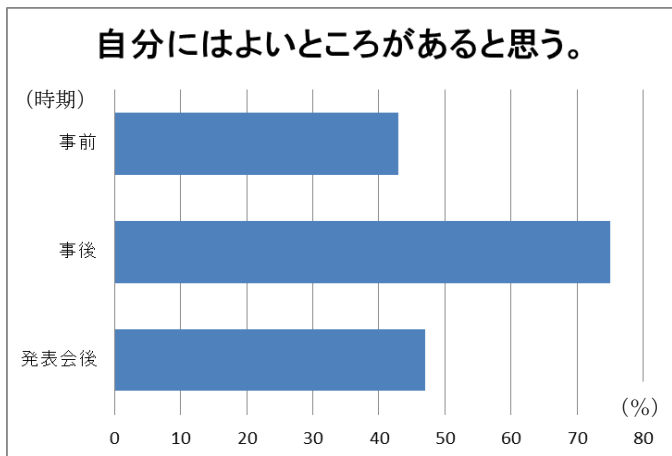
一方、発表会後の数値は、どちらも減少している。

これは、体験活動で学んだことを、日々の生活や学習へつなげていくことが、十分ではなかったからと考えられる。

○保護者からは、宿泊体験活動後には、肯定的な評価を得ることができた。準備段階から協力していただいた保護者の方に対して、「体験活動を通した子どもの成長」を示すことができた。

#### ○保護者の声

- ・自分で考えて行動し、動けるようになってきた。
- ・以前より、進んで「手伝いをしようか。」などと言って手伝いをするようになってきた。
- ・自分のことは自分でするようになった。
- ・どんな活動にも意欲的に参加できるようになってきた。
- ・家族と協力する様子が見られるようになってきた。
- ・リーダーシップをとることは、苦手な方だったが、最近は積極的に「やってみたい」と何でもチャレンジしていく気持ちが大きくなってきた。
- ・自分のことだけでなく、周囲の事に目が向けられるようになってきた。



#### <課題>

○この体験活動は、「地域を知り、郷土を愛する子どもを育てる」ことができる貴重な機会であり、そのためにも地域の人材や施設の活用をさらに広げていく必要がある。

○児童の実態に応じたねらいに沿ったプログラムに設定することが必要である。また、体験しただけで終わらないように、目的意識を明確に持たせ、日々の学習活動につなげていく。